

防衛力の抜本的強化 のための防衛生産・ 技術基盤のこれから

防衛装備庁 長官
土本 英樹

防衛技術ジャーナルの読者の皆様、新年あけましておめでとうございます。

さて、旧年はロシアがウクライナを侵略し、こうした動きに呼応するように、東アジアにおいても、中国が台湾周辺において威圧的な軍事訓練や、我が国 EEZ 内への弾道ミサイルの発射にみられる力による一方的な現状変更を継続し、北朝鮮は、5年ぶりに日本列島を飛び越えて太平洋に弾道ミサイルを撃ち込むなど、国際社会への挑発をエスカレートしています。国際社会は戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入したと言えます。

こうした情勢を踏まえ、昨年末に策定された戦略三文書においても、領域横断能力等の強化や先端技術の研究開発の推進など、防衛力の5年以内の抜本的な強化を打ち出すとともに、装備品の取得に際しては、防衛力そのものである防衛生産・技術基盤の維持・強化の観点を一層重視し、防衛事業の魅力化や販路拡大などの、より踏み込んだ取り組みを打ち出しております。



この防衛生産・技術基盤は2つの要素から成り立っております。1つ目は、防衛技術基盤です。科学技術の急速な進展を背景に戦い方の変革が加速しており、これに対応するには研究開発の着手と実装の早期化が不可欠です。アジャイル型の開発手法の導入や集中的な投資により早期の防衛力抜本的強化を実現します。

さらに、民生技術を防衛分野で活用する、いわゆるスピノンを進めることは非常に重要であると認識しています。防衛省・自衛隊のニーズを踏まえた科学技術・イノベーションの成果の取り込みも進めてまいります。将来的な防衛分野での技術活用が期待されるテーマの発掘・育成を図る安全保障技術研究推進制度や、有望な先進技術を早期に育成し、装備品の研究開発に適用する先進技術の橋渡し研究に加えて、米国の DARPA や DIU も参考に、我が国の実情を踏まえた研究機関の在り方の検討を加速してまいります。

昨年7月24日（日）には、JAXA 内之浦宇

宙空間観測所において、国内初となるスクラムジェットエンジンの燃焼飛行試験が行われました。本試験は、先述の安全保障技術研究推進制度において採択した事業の一環として行われたものです。今後、防衛省が進める極超音速誘導弾の研究開発において、スクラムジェットエンジンの性能を評価・検討するにあたり、こうした成果を活用できるものと見込んでいます。

このように、将来にわたって我が国防衛を全うする観点から、防衛省として先端技術に重点的な投資を行うだけでなく、アカデミアや企業において推進する研究開発事業の成果を活用することは非常に重要です。防衛省としては今後とも、こうした取組みを深化させ、官民手を携えて研究開発の強化に邁進していきたいと考えています。

2つ目の要素は防衛産業です。防衛産業は、防衛力の中核たる装備品のライフサイクル全てを担っている防衛力そのものです。防衛産業と装備は一体不可分であり、防衛力の抜本強化は防衛産業なくしては不可能です。一方で、企業にとって防衛事業は、高度な要求性能や保全措置への対応のために多大な経営資源の投入を必要とする一方で、収益性が低く、さらにマーケットが防衛省・自衛隊に限られるなど、将来性に乏しいため、企業にとって魅力が低下しています。防衛産業の位置づけを政府として明確化するとともに、企業のコストや利益を適正に評価する新たな仕組みを導入し、企業が着実に収益を上げられるようにすること、さらには、

各種のリスクに対応するための幅広い支援策の導入により防衛産業基盤を強化します。

わが国の防衛産業には、サプライチェーン途絶やサイバー攻撃など、様々なリスクが顕在化しています。防衛産業は、仕様が特殊で代替性が低いという特徴を持ち、防衛事業からの撤退はそれ自体が装備品生産に支障を来たします。サプライチェーンを、実効性を持って調査し、事業撤退時の承継の円滑化や、製造工程の改善、サプライチェーンの強靱化に必要な措置を講じます。また、サイバーセキュリティの強化の重要性は皆さんご存じのとおりかと思えます。米国防総省が求める基準と同等の基準を導入し、プライム企業からベンダー企業まで必要などころに確実に届く形でコスト負担の軽減策を講じます。さらに、従来からの措置に加えて装備移転を提案する際に企業側に必要となる開発費用等のコストに係る措置や、政府主導で移転するためのスキームの検討を行います。以上のような各種の措置を実施するために必要となる法整備を次期通常国会での提出に向けて検討しております。このように、日本の防衛力そのものである防衛生産・技術基盤が抜本的に強化されようとする中、最も大切なのは、国民の皆様おひとりおひとりの理解と支援です。皆様の期待に応えられるよう、防衛装備庁一丸となって2023年も取組んでまいります。

最後になりましたが、皆様のご多幸とご健勝を祈念しまして年頭のあいさつとさせていただきます。